

日本の看護、タイで生かしたい

11月4日にタイから来日したメーサイ病院看護師のソムスリ・サンプラパナントさんことマウスさん、ジーラポン・バンスクさんことニューさんの2人が、1カ月にわたる城西病院を中心とした日本の医療現場の視察を終えて、12月3日に帰国します。

マウスさんは医療機器・機材の感染防止や看護師の管理、ニューさんは産科のエキスパートとしてメーサイ病院で働いています。

城西病院で2人は、手術室や療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、外科病棟、外来などの現場で病院システムや看護師業務などを視察。さらに、特別養護老人ホーム「ヒューマン・ハウス」や介護老人保健施設「すばる」の福祉施設の現場も視察しました。

タイではマラリアや Dengue 熱などの感染症が多く、医療現場の看護師も不足しているといい、「医療機器の感染防止や看護師の仕事のシステム化などは、タイに戻ってさっそく取り組みたい」と話していました。またタイの高齢化をにらんで「高齢者の福祉施設も勉強できてよかった。いざタイでも必要になります」と話していました。

平成26年11月28日

城西病院で1カ月の視察



マウスさん

日本に来たのは初めて。タイで人気のある国です。日本に来て、自然が素晴らしく、まちもゴミが散乱しておらず、とてもきれいでした。何より、城西病院をはじめ、日本人が優しくしてくれる、その温かい気持ちがとても印象的でした。

日本の病院は、レントゲンや機械などとてもハイテクを使っていました。そして、看護師のシステムがきちんとしていて、患者さんに対する役割もきちんと決まり、患者さん本位で優しく丁寧に接していました。

ソムスリ・サンプラパナントさん チェンライ出身。メーサイ病院では職員や機器材の感染予防、看護スタッフの管理業務などを行っている。

ニューさん

日本に来て、東京はとても人が多いので驚きました。しかし、そうした場所でも古い建物を大事にしたり、文化を守る気持ちが伝わってきました。

病院では、患者さんに対し快適になるように、器具などを看護師さんの工夫で使っているのを見て感心しました。

タイでも高齢化が徐々に進んでいます。今は訪問看護で対応していますが将来は施設が必要になってきます。城西病院で高齢者の看護も経験し、勉強になりました。

ジーラポン・バンスクさん チェンライ出身。メーサイ病院では、新生児蘇生術を修得。胎児モニタリング、新生児ケア、母子の愛情形成産科の指導も行う。

